

自然災害発生時における 重機の操作技能向上に努めています

当発電所では、自然災害により発電所構内の道路が、がれきや倒木などで通行できなくなるといった事態に対応するため、所員自らがホイールローダなど重機を操作できるよう、一年を通して定期的に訓練を実施しています。

6月には、地震により構内の道路に段差が生じ災害対応に必要な車両が通行できなくなるという想定のもと、ホイールローダを使用した段差の解消訓練を行いました。訓練参加者は、ホイールローダの操作手順を再確認するとともに、迅速かつ正確な作業が行えるよう、成果や改善点などを共有しました。

このほかにも、当発電所では、道路の被害状況に応じて適切に復旧作業ができるようバックホウの操作訓練や、夜間・冬季など厳しい条件下での操作訓練も行っています。

今後もこのような訓練を継続することにより、緊急時の対応力向上に努めてまいります。

【ホイールローダ操作訓練】



乗車前の指差し呼称による安全確認



段差を模したコースに砂利をスロープ状に敷設し段差を解消

【さまざまな状況を想定した訓練】



バックホウ操作訓練
(がれきや土砂の撤去)



夜間訓練



冬季訓練

閉込機能確保の取り組みをご紹介します

当発電所では、東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓などを踏まえ、大きな災害にも耐えられる発電所を目指し、震災前の安全対策に加えて、設備面と各種訓練など運用面の双方からさまざまな安全性向上対策に取り組んでいます。

設備面の対策として今回は、万一の事故時に放射性物質を閉じ込めるための対策をご紹介します。

原子力発電所の安全を確保するためには、原子炉を「止める」、燃料を「冷やす」、放射性物質を「閉じ込める」といった機能が重要です。万一重大事故が発生し、「止める」「冷やす」が機能しなかった場合でも、放射性物質を「閉じ込める」ため、さまざまな安全性向上対策に取り組んでいます。

具体的には、損傷した炉心などから水素が発生した場合、原子炉建屋の水素爆発を防止するため、電気や運転員の操作がなくても水素濃度を下げることができ装置（静的触媒式水素再結合装置）を設置することとしています。

また、原子炉格納容器内の圧力や温度が高くなった場合、破損を防止するために、原子炉格納容器内の蒸気などを大気に放出しなければならない事態も想定されます。このことから、放出する蒸気などの放射性物質の量を1/1,000以下に大幅に抑制する特殊なフィルター装置（フィルター付格納容器ベント装置）を設置することとしています。

このほかにも、当発電所では、事故の影響を最小限にするためのさまざまな対策を行うこととしています。

